



■3D教育プログラムの導入のきっかけ

もともと総合学習の時間を特色ある授業にしたいというのが本校の一つの狙いとしてありました。そのため平成15年度の総合の時間がスタートする前からさまざまな検討をして準備をしていました。そして各学年毎の目的を立てて、自分たちで独自に3年間のプログラムを作っていました。各学年毎の目的は、1年生は自己発見の年、2年生は調査・研究の年、そして3年生が自己実現の年と掲げ、3年間のプログラムを立てます。その頃はまだ独自で作成した内容での取り組みを行っていましたが、その頃、KA教育の菊地代表と本校の教頭との接点があり、菊地代表を紹介していただいたんです。

■現在の導入体制は？

菊地代表と相談をする中で、本校の年間プログラムに合った教材を教えてもらい授業の中に組み込むという形をとっています。初めは平成16年に試験的に1年生だけ導入し、翌年からエゴグラム診断を全学年で導入することになりました。グループコミュニケーションのプログラムについては1年生のほうで導入しています。ただ、こうしたグループ学習

師が足りない部分があれば自然と補足し合ったりできているのでよく機能していると思います。生徒への目の届き方や50分の授業の中での時間の有効活用にもつながっていてメリットは多いと感じています。

■担任へのフィードバックについて

総合学習の担当教員が感じたことは授業が終わった後などに担任にフィードバックするようにしています。逆に担任からも「今日の総合はどうだったか」と聞いてくることも多く、相互に情報を共有しています。例えば、授業を通して、気になる生徒がいれば、担任に「ホームルームの時に注意して見てほしい」と伝えたりしています。初めの頃は、総合の時間ではど

■グループ学習の現状・位置づけ

グループ学習でのグループ分けですが、今日の授業は自由に座っていました。普段は仲の良い人同士が

なことをやっているのかわからないという声もありましたが、先ほどのような情報交換や実際にマイチャレンジの提出を呼びかけてもらったりする中で、理解が広がってきた感じがしますね。また、エゴグラム診断の結果なども職員室で話題となったり、結構興味を持つ担任も多いです。菊地代表に実施していただいている報告会は、学年毎にはできないので、日程を調整して全学年一斉に行っています。これにより教員全体への浸透度も高まっていると思います。

校訓に向けての具体的な行動が グループ学習での人間教育



インタビュー
総合学習科主任 笠間陽弘 先生

の教材は3年生の個人研究やレポート提出の導入として活用させていただったりもしていますね。

1年生は最初からグループ学習をすることに慣れていないこともあるので、1年間を前半、後半に分け、10月までの前半は個人研究を中心に行い、11月以降の後半からグループ学習に取り組みするようにしています。

総合学習は週1回ですが、きちんと時間割に組み込まれているので、もともと独自に考えていた内容と併用し進めています。

また、3D教育プログラムとは別ですが、2年生などは校外学習とからめてグループでの調べ学習などを行なっています。そういう点では、さまざまな織り交ぜながらいろいろな角度で総合学習の時間を行って



同じグループにならないよう、ランダムにいろいろな人とグループになれるようにしています。黒板にあらかじめグループを書いておいたりすることもあります。まだ意見を発表したりすることに慣れていない面もありますが、まずは1年生は下地づくりの時期と捉え、2年生、3年生の時にそうした発表する資質を身につけていければいいなと思っています。

■今後に向けて

本校の校訓に「人に親しまれ、信頼される人間になれ」とありますが、実際にそれに向けて具体的に何をとり組んでいるかという点、それほど明確なものがない気がします。だからこそ総合学習を一つの学校の特色として取り組む中で校訓に近づけるものだと信じてやっています。

■今後に向けて

生徒からはグループ学習の授業には「楽しい」という評価が多いですが、その楽しさの中から生徒自身が何をすべきかを見極められるようにしていきたいと思っています。やはり、まだうまく意見が言えなかったり、じっくり話しを聞けなかったりする生徒もいます。こうした授業を通して少しずつでもコミュニケーション能力を身につけ、大人になっていってほしいと思います。それが校訓にある人材へ

いるという状況です。

■総合の時間の担当は担任教師ですか？

いいえ、違います。本校では総合学習を一つの科目として扱っています。ですので、総合の時間を担当する教員が決められています。自分の教科プラス総合学習という形で、各学年で2人ずつチームリーダーで授業を担当し、全体としては6名の体制で推進しています。この6人で話し合いを持ちながら各学年の方針を決めています。

この体制のメリットは、担当する2名が一つの学年の全クラスを同じ目線で見ていけることでクラスの特徴がよく見えることです。このテーマはこのクラスは苦手だとか、このクラスはよく盛り上がりつつあるなどの雰囲気を通して、クラスの状況を察知できます。普段の授業ではなかなか見えない部分が見えてくるんです。

また、総合の時間は普段の教室ではなく、多目的教室に場所を移動して行なっています。これもいつもと雰囲気が違うため、生徒も授業に入りやすいですし、いつもと雰囲気が違う分、よく生徒のことが見えたりします。

チームティーチングについても非常に上手く目的意識を共有しながらできていると思います。一人の教員とつながっていくと信じています。今後、より独自性のある総合学習の時間となるよう懸命に取り組んでいきたいと思っています。そして、この取り組みによる目に見えた変化をどんどん見つけていきたいと思っています。

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・ グループ学習の授業「楽しい」との生徒の声
- ・ 1年生でグループコミュニケーション能力の下地ができてきた
- ・ 総合学習の時間を通し、校訓に近づく人間教育ができてきている